

編集後記

特定非営利活動法人
よこはま地域福祉研究センター
センター長 佐塚 玲子
役員員一同



子ども・若者の育ちと自立を支えるには？子ども・青少年の居場所づくりを推進するには？テーマに真正面から向き合う日々が続いています。同時に、同様のテーマに私たちと同じように向き合い、子どもや若者、仲間と共に地域社会で活動される方々にたくさん出会い、対話をさせていただく機会を得ました。事業にかかわり2年目の今、確信したことは、子どもや若者の育ちや自立も、子ども・青少年のための居場所も、大人が既成概念にとらわれて考え、つくるものではないことです。

第1号の事例集の制作時、さまざまな居場所を取材しました。活気があり、集う人々が生き生きしている居場所には「豊かな対話」があることに気がきました。子ども・若者・大人たち、それぞれが互いの存在を認め、互いが存在することで、生きるチカラを得ているように思いました。どんな居場所にも不可欠なものとは何か？それを、皆で検証するために、第2回のフォーラムのテーマは「コミュニケーション(対話)」としました。

講師の若新さんが「異なる人が集まると何かが生まれる。そんな化学反応がおきるのが居場所」「共存できる場所が人間のエネルギーを補完する」とおっしゃいました。実感です。

事業は、全体のちょうど半分のところに来ました。さらに、協働の歩みを進めていきます。これからの、さまざまな方々との出会いも楽しみです。今後ともよろしくお願ひいたします。

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
会長 篠原 正治
地域福祉推進担当職員一同
企画調整・情報提供担当一同



本会が(特非)よこはま地域福祉研究センターと(福)神奈川県共同募金会と協働して「子ども・若者の育ちと自立を支える協働事業」に取り組み、また、県青少年課より「子ども・青少年の居場所づくり推進事業」の委託を受け、2年目となりました。

子ども・若者の居場所として、子ども食堂やフリースペース等、内容も担い手も多様に広がる今、そうした活動の必要性、今時の子ども・若者が抱える悩みとは、そもそも居場所とは何かという、漠然と捉えられていることをこれらの事業を通じて明確にし、発信し、共有したいと、ガイドや事例集の発行、フォーラムの開催を行っています。

こうした取り組みを通し、本県における居場所の取り組みが一層広がり、子ども・若者を支える活動からも地域のつながりづくりの輪が広がることを期待しています。今後ともご理解とご協力を願ひいたします。

今後の予定

- 2018年夏
子ども・若者の居場所づくり事例集
2号発行
- 2018年秋
第3回フォーラム開催
- 2019年春
ガイド vol.3 発行

社会福祉法人神奈川県共同募金会 会長 並木 裕之
役員員一同



人々のライフスタイル等が多様化する現代社会の中で、共同募金会では、これからの共同募金の使命と役割を協議してきました。

この協議結果をもとに、本会では社会的な課題の解決に向けて、同じ目的を持つ公益活動団体等と協働して、ともに考え自らも実行していく、新たな取り組みを開始しました。2016年から展開している、(特非)よこはま地域福祉研究センター、(福)神奈川県社会福祉協議会との「子ども・若者の居場所づくり事業」は、共同募金会が直接事業に参画する全国初の取り組みです。

今年のテーマは「対話=コミュニケーション」。この事業を通じて、人と人、組織と組織のネットワークが、さらに広がることを心より願っています。

Information

「子ども・若者の居場所づくりガイド」および事例集は本会ホームページより閲覧・ダウンロードできます。
<http://www.knsyk.jp/s/shiru/seisyounen.html>



子ども・若者の居場所づくりガイド
～導入編～(県委託事業) 2017年3月発行



子ども・若者の居場所づくり事例集
2017年11月発行

そして自分は、
我が子を、
このように育てて
きただろうかと、
反省しきり
だったといった。

